

ニューメキシコ大学での研修の報告

2026年2月13日～22日（8泊10日）の日程で、長崎大学薬学部の薬学科5年生1名および教員1名が、北海道大学大学院博士課程1年生1名とともに米国ニューメキシコ州のThe University of New Mexico (UNM) College of Pharmacyの薬剤師研修プログラムに参加しました。本プログラムは「文部科学省特別経費（高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発）」および「長薬同窓会寄付金」の支援を受け実施したもので、今年で6回目となります。

本プログラムは、①海外での臨床薬剤師の活躍を見学し日本との差異を体験することで高度先導的薬剤師の養成に資すること、②英語によるコミュニケーション能力、異文化に基づく研究・教育の多様性を理解する能力、自ら進んで討議に取り組む主体的態度などを身につけることにより、総合的で実践的な英語能力を養うことを目的としています。

研修初日の2月16日午前中は、導入講義の中でアメリカの薬学部やUNM薬学部の教育カリキュラムについて学びました。ランチタイムには、UNMの薬学生が定期的に行っているアメリカ薬剤師会の会合へ参加する機会をいただきました。現地学生の活発な活動に刺激を受け、学生たちは積極的に交流を深めていました。午後には、2年生の授業を体験しました。反転学習やグループディスカッション等の主体的学修を促す教育手法が効果的に実践されていると感じました。



科学論文を教材として用いたEBM(エビデンスに基づいた医療)を学ぶ授業に取り組む様子

2月17日午前中はUNM大学病院のペインセンターでPharmacist Clinicianの業務を見学しました。Pharmacist Clinicianは一定の追加教育と臨床研修を修了した薬剤師に対して与えられる資格で、医師との協働プロトコルに基づき処方権を行使することができます。実際に、Pharmacist Clinicianが、患者さんの病歴や保険状況、生活背景などを総合的に評価しながら治療方針を決定するなど個別化医療を実践している様子を見学し、患者さんから非常に高い信頼を得ていることを実感しました。午後は、薬学部2年生の臨床演習を体験しました。退院時処方の妥当性についてグループで検討するという内容でした。国民皆保険の日本とは異なり、アメリカの薬剤師は、患者さんの加入保険、保険会社のフォーミュラリー、患者さんの経済状況などの複雑状況を踏まえて、最適な治療を選択する必要があるため、そのための教育が薬学部のなかでも実施されていました。



ペインセンター見学後Pharmacist Clinicianの皆様と共に

2月18日の午前中は市内の3つの薬局を訪問しました。1軒目のVintage Compounding Pharmacyでは、患者さんの好みに合わせた様々なフレーバーのトローチ薬を製剤している様子や製剤に必要な様々な道具や機械を見せていただきました。この薬局では患者さんの病態に合わせた薬を1日あたり150~200種類を製剤しているとのことで、薬剤師の方が「毎日が新しいからこの仕事が好きだ」とおっしゃっていたことが印象的でした。2軒目のWalgreens Pharmacyは、日本でもみられるような大手のドラッグストア併設型薬局です。薬剤師は処方箋の調剤やOTC医薬品の販売だけでなく、予防接種や健康相談など地域医療において幅広い役割を担っている様子をうかがえました。3軒目のDuran Pharmacyは患者さんに寄り添った地域密着型の薬局でした。分包調剤や、薬局内に設置してある健康相談室ではオンライン診療、ヘルスクリーニング、一般的な予防接種に加え、海外渡航前の予防接種、さらには患者さんのお宅への薬の配達もされているとのことでした。日本と同じように、薬局には患者さんのニーズに合わせて様々な業務形態や特徴、役割があることを実感しました。

午後は、ECHO (Extension for Community Healthcare Outcomes) に参加しました。ECHOは多職種で行う症例検討のビデオ会議で、その日はPharmacist Clinicianが現在担当しているC型肝炎の患者さんの症例を提示し、10名ほどの他医療職種の専門家と共に最適な治療方針について意見交換をしていました。このビデオ会議システムは約20年前にUNMから始まったもので、今では世界中に広がっているそうです。ECHOの後は、UNM病院薬剤部を訪問し、薬剤師の業務や薬剤の管理について見学しました。

2月19日の午前中は、学生たちはUNMの薬学生と合同で研究発表会を行いました。英語による発表および質疑応答に積極的に取り組みました。午後はUNMの薬学生たちが主体的に取り組んでいる疾病スクリーニングイベントに参加しました。地域住民に対して、簡易心電図、血圧測定、血糖値測定を行ない、測定結果に応じて積極的に受診勧奨するなど、学生の頃から深く医療に関わっていることを改めて実感しました。夜には親睦会・送別会が行われ、今後の長崎大学とUNMの教育・研究交流について意見交換しました。学生たちも多くの方々と交流する中で、大変貴重な経験をさせていただきました。



Vintage Compounding Pharmacy の見学



Walgreens Pharmacy の見学



UNMの学生たちとの合同研究発表会後



学生による疾病スクリーニングイベント

2月20日の午前中はアメリカおよびニューメキシコ州における薬剤師と Pharmacist Clinician の役割に関する講義を受けました。医療制度や保険制度、極度の医師不足などの社会的背景が、日本とは異なる薬剤師の役割・職能および専門性の発展に深く影響していること改めて実感しました。



イタリアンレストランでの親睦・送別会

今回の UNM での研修は、今後の日本の薬剤師の在り方や薬学教育の方向性について考える重要な機会となりました。参加した学生からは、「今回の研修を通して、違いを知り良い点を取り入れられないかを模索することはもちろん、世界で同じ時代に同じ分野で働いているため共通している悩みも多くお互いどのように乗り越えていくのかを学びあうことが大切と感じました」「本研修で得られた知見を今後の研究および教育活動に還元し、日本の薬学教育および医療の発展に貢献できる人材へと成長していきたい」と感想や今後の決意が表明されました。

このような貴重な研修の機会を提供して下さった UNM の関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

関連サイト：

全国国立大学・薬学部高度先導的薬剤師養成プログラム

<http://www0.phs.osaka-u.ac.jp/koudosendouteki/news/detail.php?id=331>